



## 船橋市国際交流協会設立35周年記念号



## 35<sup>th</sup> Anniversary Ceremony

### 協会設立35周年記念式典を インターナショナルフェスティバル2022と同時開催！

日付：10月23日（日）  
場所：ふなばしアンデルセン公園

- ・式典 ・ステージ
- ・スタンプラリー
- ・模擬店 など

**永年会員を表彰します。**

協会在籍15年以上の会員の方に招待状を送ります。  
ぜひご参加ください。



# 35th Anniversary

## ご挨拶

船橋市国際交流協会  
会長 嘉規 洋



今年2022年、船橋市国際交流協会は設立35周年を迎えました。

設立から今日まで、さまざまな形で献身的に当協会の活動を支えてくださった全てのボランティアの皆様や関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

当協会は、船橋市が米国・ハイワード市と最初の姉妹都市を提携した翌年の1987年に産声を上げました。当時、「交流を市民の手で」の機運のもと、現地に住むツルモトご夫妻を中心とするハイワード姉妹都市委員会が創設され、船橋市側でも民間レベルの組織づくりが待たれていた時代でした。

以来、現地との強い絆に支えられ、市民団の訪問交流をはじめ、カリフォルニア州立大学イーストベイ校に大学生や高校生を派遣するなど若者の育成に

も力を入れてきました。

一昨年から続くコロナ禍では、テリー・リーさんの後を継ぎ今年5月にハイワード姉妹都市委員会の委員長に就任された袴佳恵子さんと協力してバーチャル交流会を立ち上げ、時代に即した新しいかたちで、両市の絆をより一層深めているところです。

これからもオーデンセ市、西安市を含めた3つの姉妹・友好都市との市民主体の国際交流を協会の柱とし、次の世代へとしっかりつなげて参ります。

もうひとつの大きな柱は、市内の外国人支援と国際化推進です。

日本語教室や外国人相談、インターナショナルフェスティバルや国際理解セミナーなどの軸事業では、長年にわたり実に多くの会員が親身になって外国人をサポートし、相互理解を深める活動に力を注いできました。

市内どこにいても外国の方を多く見かけるようになった現在では、これまで以上に多文化を理解し、互いに思いやりを持って支え合える地域づくりが大切です。市と協力して、力強く次の10年、20年先の歴史を創ってまいりますので、引き続き、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

## 祝辞

船橋市長  
松戸 徹



船橋市国際交流協会の設立35周年にあたり心からお祝いを申し上げます。35年という大きな節目を迎えられましたのも、ひとえに嘉規洋会長をはじめ歴代役員並びに会員皆様の熱意とご尽力の賜物と深く敬意を表します。

本市の姉妹・友好都市交流は、1986年の米国・ハイワード市との姉妹都市提携から始まり、その翌年に協会が設立されて以来、1989年デンマーク王国・オーデンセ市との姉妹都市提携、1994年中国・西安市との友好都市提携と発展していきました。

協会設立のきっかけとなったハイワード市とは、昨年の2021年11月に姉妹都市提携35周年を迎えました。協会のご協力により10月のインターナショナルフェスティバルに併せて両市の記念式典を開催し、

オンラインでバーバラ・ハリデー市長にもご出席いただけたことは、コロナ禍での新たな交流の歴史として記憶に刻まれました。

姉妹都市の理念は、第二次世界大戦後、米国のアイゼンハワー大統領が、共に世界平和を築くためには国と国との外交だけでなく「ピープル・トゥー・ピープル」の市民外交が大切であると提唱したことに始まりますが、協会はまさに「人」と「人」の心がふれあうような市民主体の国際交流の中心的役割を果たしてくれています。

協会の皆様には、日本語教室や文化紹介イベント等の活動を通じて、外国人住民の支援や市民の国際理解の促進にご尽力いただいております。これからも外国の方を良き隣人として迎えていただき、国籍や文化、言語等の違いに関わらず、「人もまちも輝く笑顔あふれる船橋」の実現のため、互いに支えあい、誰もが活躍できるまちづくりを、市と共に推進していただけることを期待しています。

船橋市国際交流協会のますますのご発展と会員の皆様のご活躍を心からご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

# 令和4年度船橋市国際交流協会総会を開催

船橋市国際交流協会は、5月18日（水）に令和4年度第一回総会を船橋商工会議所ホールで24名の参加のもと開催しました。嘉規洋会長、来賓の松戸徹市長の挨拶のちに議案提案が行われました。事業報告と決算報告、令和4年度の事業計画案と収支予算案、規約の改正、4・5年度の理事、会長、副会長の承認と、すべての議案が可決承認されました。総会の議事内容と、事前質問・要望に対する回答は、ホームページに

掲載しましたのでご覧ください。

## 令和4・5年度 会長・副会長・部会長

会長	嘉規 洋
副会長 国際化啓発・広報部会長（兼務）	小田原 隆泰
副会長	田邊 厚志
副会長 事務局長（兼務）	片桐 卓
交流・相互理解部会 部会長	椎名 有香
外国人支援部会 部会長	浦和 かほる

## 新部会長紹介

### 心と心のつながりを大切に 椎名有香（交流・相互理解部会長）

私は、東日本大震災後に船橋市が設置した「防災女性モニター」として、前部会長の梁瀬さんといっしょに、防災・減災に関わる取り組みを行っていました。2016年10月船橋市・ヘイワード市姉妹都市提携30周年記念祝賀会に参加した際に、両市の交流に貢献されたツルモト夫妻と、それに携わった方々が、今も心と心のつながりを大切に交流されている姿をみて、感銘を受けました。これが当協会のお手伝いをさせていただききっかけになりました。このような「草の根交流」をさらに進めていくために、会員の皆さんとともに、様々な取り組みを展開できるよう力を尽くしたいと思います。



サッカーのレフリーもしています

# ウクライナ避難民を支援 ～「協会サロン」で日本語教室～



「協会サロンに通うのが楽しみです!」と、右からエブゲニイさん、テチャーナさん、オリガさん、ガリーナさん

8月6日（土）に歓迎会を開催!



避難民とその親族も参加し、ボランティアと一緒に楽しい交流のひとつを過ごしました。

ウクライナから船橋市に避難してきた人は、7月末現在で6世帯9人。市では、市営住宅の提供や見舞金の支給、AI音声翻訳機の貸し出しなど、さまざまな支援を行っています。協会のボランティアも、日本語学習や買い物の同行など、日常生活のサポートで協力しています!

協会サロンでスタートした日本語教室では、毎週土曜日にウクライナ避難民どうしが顔と顔を合わせてコミュニケーションをとりながら、楽しく日本語を学んでいます。



早く来日したオレクサンドラさんはもうカタカナも覚えました。



鶴を折った後、折り紙すもうで遊び、笑顔も出ました。



# 東邦大学の学生が日本語教室を見学

6月1日に、東邦大学・習志野キャンパスで学ぶ将来の看護師8人が、「看護実践の探究 異文化コース」という大学の単位の一環で東部公民館の日本語教室に見学に来ました。昨年、一昨年はコロナ禍で対面の日本語教室が行われておらず、大学のご希望をお受けできませんでした。その間は、個人で大学に伺って、オンライン授業で異文化の人たちと接することの楽しさや課題をお話ししたり、少人数の外国の方といっしょに問診票の書き方をやさしい日本語で説明する実践のお手伝いをしました。

今年度はじめて計画が実現し、学生たちは4つのグループに入って日本語学習支援ボランティアたちの外国人学習者への接し方を見学しました。少し活動にも参加していただき、終了後には「日本語は難しいと思った」「ジェスチャーや言い換える工夫が見られた」「ボ



ジェスチャーで伝えてみる学生

ランティアが笑顔で接しているのが印象的だった」などの感想が寄せられました。看護師として働くようになったときに、少しでもこの経験を思い出していただければ嬉しいです。

# 「日本語ひろば」でも対面活動が始まりました

毎週月曜日の午後に協会サロンで開かれている、対面の「日本語ひろば」取材しました。スタッフボランティアと外国人参加者で会話を楽しむ様子はまさに異文化コミュニケーションで、皆さんとても楽しそうでした。

外国人参加者、台湾のチャンさんと川村さんも、対面ひろばだとその時思ったことをその都度質問できるので、覚えやすいと話していました。お二人共、日常生活に必要な生きた会話を学びたい、まずは日本語を「話すこと」が大事だと、真剣に日本語での会話に取り組んでいる姿が印象的でした。

日本では泥付き野菜が売られていることに驚いたこと、野菜を天ぷらにすることは台湾にはないこと、小



スタッフの早川さんと芳野さん



参加者の川村(左)さんとチャンさん(右)

松菜はニンニクと油で炒めてラーメンにのせることが多いなど、ジェスチャーを交えたり、翻訳ソフトで調べたりしながら、楽しい話を聞かせてくれました。

スタッフボランティアの早川さんと芳野さんは、参加者の方々の話に真剣に耳を傾け、効果的な上達方法についていろいろと提案していました。早川さんは、参加者に様々な質問をすることで、会話の幅を広げていました。芳野さんは、会話で使用した日本語をホワイトボードに書き、漢字にはふりがなをふり、参加者が日本語の語彙を増やす手助けをしていました。文化の違いについても様々な発見があり、実りある活動になっているようです。